

室町時代源氏物語本文史の研究
— 紅梅文庫旧蔵本を中心に —

科学研究費助成事業・若手研究・(令和元年度～令和四年度)報告書

「新出資料紅梅文庫旧蔵本を中心とした三条西家源氏物語本文の再構築に関する研究」

課題番号 19K13063 研究代表者 上野 英子

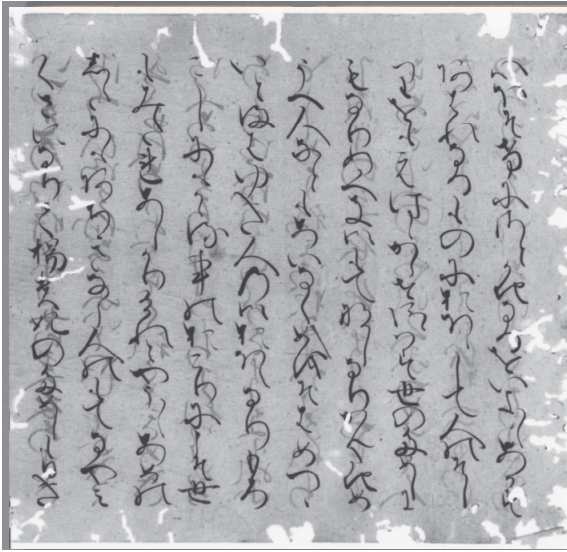
本云
 此物徳五十四拓以傳後天納言實上
 自來本在上福為法喜院自彼書
 寫者在卷中深秘不可遺他下之也
 明應元年六月一日
 李部判

紅梅文庫旧蔵本

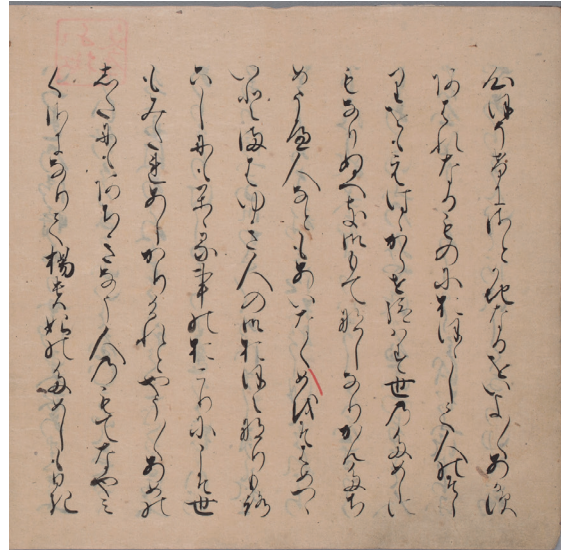
此物徳五十四拓以傳後天納言實上
 自來本在上福為法喜院自彼書
 寫者在卷中深秘不可遺他下之也
 明應元年六月一日
 李部判

熊本大学附属図書館所蔵（教育学部旧蔵）本

伏見宮家本をもとに、複本が少なくとも2部（紅梅本・熊大本）作成された

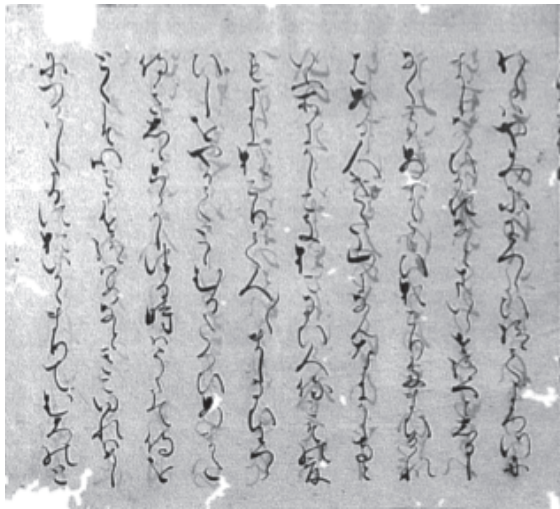


熊本大学附属図書館所蔵（教育学部旧蔵）本



紅梅文庫旧蔵本

桐壺卷1ウの書影比較



熊本大学附属図書館所蔵（教育学部旧蔵）本



紅梅文庫旧蔵本

若紫卷1オの書影比較

室町時代源氏物語本文史の研究

— 紅梅文庫旧蔵本を中心に —

はじめに

第一部 三条西家本系統を中心とした室町時代諸本の様相

伝周桂筆『源氏物語』の様相 — 胡蝶巻を中心に—

菅原郁子 1

三条西家本系統諸本の「篝火」巻の字母の分析

沼尻利通 17

仮名字母の出現傾向から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付けの調査

—書陵部蔵三条西家本、保坂本、大正大学本を中心とした写本との比較を通して—

齊藤鉄也 33

Ngramを用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付けの調査

—書陵部蔵三条西家本、保坂本、大正大学本、日大本、池田本、大島本
を中心とした写本との比較を通して—

齊藤鉄也 49

第二部 紅梅文庫旧蔵本の由来をめぐる考察

いま、なぜ、三条西家本なのか

上野英子 93

いま、なぜ、紅梅文庫旧蔵本なのか

上野英子 105

若紫巻を中心とした紅梅文庫旧蔵本の分析

上野英子 115

上藤局と南御方は同一人物か否か

中城 さと子 135

上藤局本『源氏物語』写しの二本をめぐって

中城 さと子 143

第三部 室町時代の本文史・享受史をめぐる考察

伏見宮家の源氏物語享受―貞成親王・邦高親王を中心に―

上野 英子 177

宗祇・肖柏・実隆の『源氏物語』研究

中城 さと子 201

『源氏物語』本文史―定家本から三条西家本へ―

藤井 日出子 229

付録

紅梅文庫旧蔵本と熊本大学教育学部蔵本の各巻枚数比較

上野 英子 310

紅梅文庫旧蔵本と熊本大学教育学部蔵本の書き入れ一覧

上野 英子 311

あとがきに代えて―紅梅文庫旧蔵本の影印紹介について

上野 英子 323

はじめに

本誌は、二〇一九～二二年度に受けた文科省科学研究費補助金・若手研究による「新出資料紅梅文庫旧蔵本を中心とした三条西家源氏物語本文の再構築に関する研究」の研究成果報告書である。また本書とは別に、紅梅文庫旧蔵本源氏物語（カラー版）の全画像をインターネットで公開する予定である。この画像には何の制限も設けないので、御自由にお使いいただければ幸いである。

本研究の目的は、室町時代後期以降の源氏学を席卷した三条西家の源氏物語本文を再検討すべく、実隆最初の手沢本となった〈文明本〉（散逸）の流れをひく紅梅文庫旧蔵本の具体像（書誌・本文の位相・制作背景等）を明らかにすることであった。

なんとすれば三条西家の源氏物語本文は、青表紙原本とされている諸帖や大島本などの、いわゆる〈四半本〉と称されている定家本源氏物語とは異なった、もうひとつ別の定家本、すなわち〈六半本〉の系統をひく可能性が強いからである。

そのために研究会を立ち上げた。参加してくださったのは以下の方々である。各々アプローチの仕方は異なるが、室町期の本文状況の解明に関心をお持ちの方々であった。大いなる刺激を与えて下さり、本研究を推進して下さい。ここに感謝の意と共に、五〇音順・敬称略でお名前を紹介させていただきます。

- ・ 神田久義（田園調布大学、非常勤講師）
- ・ 久保貴子（実践女子大学）
- ・ 齊藤鉄也（淑徳大学）
- ・ 菅原郁子（文教大学）
- ・ 中城さと子（中京大学、元非常勤講師）
- ・ 沼尻利通（福岡教育大学）
- ・ 藤井日出子（中京大学、元非常勤講師）

また紅梅文庫旧蔵本の画像公開作業においては、実践女子大学元非常勤講師の平井仁子氏に『源氏物語大成 校異篇』頁数との照合をお願いした。面倒な作業を一手にお引き受けいただいた。この場を借りて篤く御礼申し上げます。

さて、この研究会では「三条西家本をはじめとする室町時代の源氏物語本文が、どこから来て、どのような展開を遂げ、そしてどのような形で江戸時代へと流れこんでいったのか」をテーマに、文献学・書誌学・統計学、そして享受史（書物の背景にある人と環境の研究）等、各自が関心のあるテーマに沿ってそれぞれの方法で調査した結果を、中間報告という形で交互に報告し合い、議論を積み重ねてきた。

初年度は対面形式で年一回の研究会だったが、新型コロナウイルスが蔓延した二年目以降はZOOM形式に切り替え、ほぼ毎月のように研究会を開催してきた。本誌に掲載された各論文は、こうして発表されてきたものの一部である。無論、本誌を御一読いただければおわかりのように、発表内容によっては最後まで見解の分かれた箇所も少なからずあった。だがそれも研究の常、初期の開墾段階を経て新しいステージに移行したことによって、次の問題点がより明確になったということである。今後の研究の進展を期待したい。

本誌の刊行と、このあとに予定しているインターネットでの画像公開によって、科研費による本研究の所期の目的はおおよそ達成できたのではないかと思われる。とはいうものの、研究会の目的「室町時代の源氏物語本文が、どこから来て、どのような展開を遂げ、そして江戸時代へと流れこんでいったのか」については、まだ研究の緒にたばかりである。

方法論を異にするメンバーとの議論は、それなりの難しさもあったものの、相互に刺激を与え合うことが多く、実に有益であった。お一人お一人に改めて心より謝意を表したい。また源氏物語の本文研究・享受史研究が関心のある方々によって今後より一層活性化していくよう、本誌と紅梅文庫旧蔵本の画像が、そのためのささやかな一助となることを祈念して、筆を措く。

二〇二二年七月

上野 英子

【活動記録】

第一回：二〇一九年八月九日（金）実践女子大学

- ・三条西家本を中心とした室町時代の源氏物語について
- ・仮名字母の出現傾向に基づく紅梅文庫本『源氏物語』の調査
- ・Ngramを用いた紅梅文庫本『源氏物語』の本文分類

上野英子
齊藤鉄也
齊藤鉄也

第二回：二〇二〇年一〇月三十一日（金）ZOOM

- ・皆で考えてみたい基本的なこと
- ・三条西家本『源氏物語』についての中間報告 — 花散里を中心にして—

上野英子
中城さと子

第三回：二〇二〇年十一月二十九日（日）ZOOM

- ・Ngramを用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置づけ
— 書陵部本蔵三条西家本・保坂本・大正大学本を中心とした写本との比較を通して—
- ・花散里巻の三条西家本 — 紅梅文庫本と書陵部本・公条本—

齊藤鉄也
藤井日出子

第四回：二〇二〇年十二月二十八日（月）ZOOM

- ・上藤局と南御方
- ・公条本源氏物語について

中城さと子
上野英子

第五回：二〇二二年一月三十一日（日）ZOOM

- ・三条西家本の「篝火」巻の字母分析
- ・仮名字母の出現傾向から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置づけ（2）

沼尻利通
齊藤鉄也

第六回…二〇二二年二月二十八日(日) ZOOM

- ・伝周桂筆『源氏物語』の様相 — 胡蝶巻を中心に—
- ・若紫巻の大島本の本文 — 定家臨写本の転写本の姿—

第七回…二〇二二年三月二十七日(土) ZOOM

- ・定家本と大島本の関係
- ・仮名字母と表記を用いた蓬左文庫本源氏物語の調査 — 日大本との比較を通して

第八回…二〇二二年五月三〇日(日) ZOOM

- ・後宮で享受される『源氏物語』写本
- ・宗祇・肖柏・実隆の源氏研究

第九回…二〇二二年六月二十七日(日) ZOOM

- ・仮名字母の出現傾向から見た尾州家本『源氏物語』関連写本の調査
- ・上臈局本『源氏物語』写しの二本をめぐって

第一〇回…二〇二二年八月二十九日(日) ZOOM

- ・熊大本と紅梅本—伏見宮家の源氏本作り

第一一回…二〇二二年一〇月二一日(木) ZOOM

- ・宗祇・肖柏・実隆の源氏研究

第一二回…二〇二二年一二月二十七日(月) ZOOM

- ・上臈局と南御方

菅原 郁子
藤井 日出子

藤井 日出子
齊藤 鉄也

久保 貴子
中城 さと子

齊藤 鉄也
中城 さと子

上野 英子

中城 さと子

中城 さと子

第一三回…二〇二二年一月三十一日(月) ZOOM

・三条西家本の「篝火」巻の字母分析

沼尻利通

第一四回…二〇二二年二月二十八日(月) ZOOM

・伝正徹筆『源氏物語』の本文について

菅原郁子

・三条西家の源氏学の成立(前半)

藤井日出子

第一五回…二〇二二年三月一日(金)

・三条西家の源氏学の成立(後半)

藤井日出子

・伏見宮家の源氏物語享受 — 貞成・邦高親王を中心として —

上野英子

第一六回…二〇二二年四月二十四日(土)

・仮名字母と表記から見た室町期源氏物語写本

— 正徹本を中心とした調査 —

齊藤鉄也